

# 特別支援学校における 美術の授業を通しての自己選択・自己決定の育成について2

## 1 研究目的

本研究は特別支援学校における美術の授業を通しての自己選択・自己決定行動を促進する効果的な指導方法や支援方法について検討していくことを目的とした。

研究1年目には、自己決定ができるまでの成長過程のモデル（図1）を提案し、研究2年目には、自分の気持ちや思いを言葉で教師に伝えることができる環境づくりについての検証を行った。研究3年目の今年度は、研究2年目で達成できなかった「起こりうる事態を予測し、自分で選択肢を考え、決定することができる」の項目を達成することを重視し、制作時の作品完成までの流れやスケジュールの提示に特化した授業運営を行うこととした。

## 2 研究方法

【研究対象】 高等部 Oコース7名、Lコース8名 計15名

【対象授業】 高等部 美術

【研究方法】

研究対象の授業では、生徒自身が積極的に自分の気持ちややりたいことを教師に伝えることのできる環境づくりを心掛けた。

また、本研究対象の活動では、毎授業の導入と振り返りの時間に図2のプリントを配付し、授業の見通しがもてるようにした。期日までに作品を完成させることを意識して本時の作業内容を考えながら課題に取り組むことによって、図1における「起こりうる事態を予測し、自分で選択肢を考え、決定することができる」の項目に当てはまるような成長につながるよう試みた。

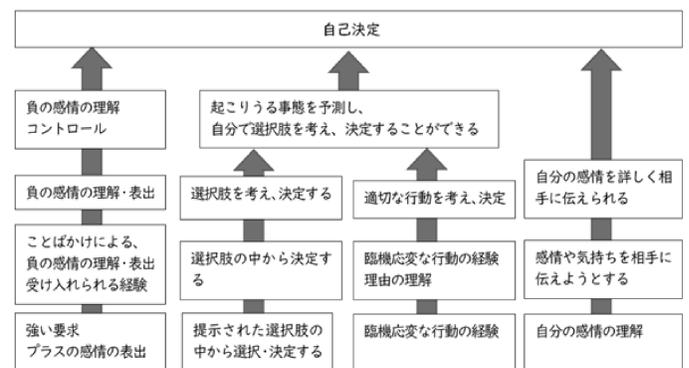


図1 自己決定ができるまでの流れ（辻,2021）

日	作業				
	型作り	新聞紙貼り	色塗り	装飾作り (髪の毛)	組み合わせ
10月11日(火)					
10月18日(火)					
10月25日(火)					
11月1日(火) 開学記念日(学校お休み)					
11月8日(火)					

作業中...○ 完成...◎

図2 プリント活用場面について

## 3 結果

- ・Oコース、Lコースの結果をまとめると、対象生徒全員が期日までに作品を完成させることができた。
- ・作品を完成させることができた15名中10名（66.7%）は期日1日前に作品を完成させ、残りの5名（33.3%）は期日当日に完成させることができた（図3）。
- ・「早めに作業を終えることができた」という発言や作業完成の◎を記入することに喜ぶ様子も見られた。
- ・課題制作時における画材選択では、選択肢に無い画材を使いたいと教師に伝えるだけでなく、取り組んでみたい内容と使いたい画材を教師に言葉で伝えることができる生徒も増えてきた。

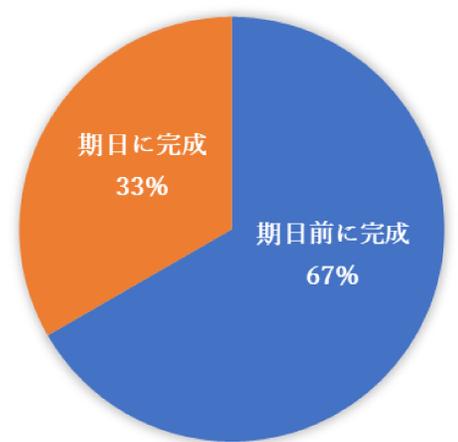


図3 作品の完成について

## 4 考察

プリントを用いて導入や振り返りを行うことで、プリントに書かれている授業の残り回数と今後の作業の流れをその都度確認できるため、生徒自らが期日までに作品を完成させようと作業のスピードを早めたり、意欲的に次の作業に進んだりすることができていた。

以上の結果から、「起こりうる事態を予測し、自分で選択肢を考え、決定することができる」（図1）を達成する上で、プリントを用いての導入・振り返りは手法として効果的であると考えられる。

また、エンカレッジメントを用いた社会的賞賛のことばかけやカウンセリングの心理安定型支援等を用いた信頼関係、発言をしやすい環境づくり、本人との対話を通して自分の気持ちを相手に伝える活動や自己選択・自己決定の経験、プリント学習を通して作業の見通しを持たせることは、生徒の自己選択・自己決定の育成にあたって効果的であると考えられた。